

実績(9月3日段階) ☆/★: 審査可能時期/審査会合実績

項 目		6月			7月			8月			9月			備 考
第三 条 及 び 第 五 条	防潮堤に関する 7月13日までの審査の実績					★	構造及び ルートの変更							
	1. 基準津波の評価等						モデル化		津波解析(数値のみ)				★	○津波解析： ・防潮堤ルート変更を反映した津波解析の結果、最大水位上昇量及び最大水位 下降量が最大となる津波波源の位置は防潮堤ルート変更前と同位置であり、 また、水位も有意な差は認められないことから、基準津波の津波波源を見直す 必要はないと判断。 ○年超過確率： ・最終設備形状の反映による基準津波への影響が認められないことから、津波 ハザード評価については見直す必要はないと判断。 上記について、第503回審査会合「津波評価について(防潮堤ルート変更に伴う 基準津波の検討)」にて提示し、基準津波及び津波ハザード評価を変更する必要が ないことが確認された。
第三 条 及 び 第 五 条	2. 基礎地盤の安定性評価						評価(原子炉建屋)							○施設の支持形式等に基づき代表施設を選定し、基準地盤Ssによる 基礎地盤の安定性評価を実施した。 ○鋼管杭鉄筋コンクリート防潮壁(新ルート含む)の安定性評価について は、同様の杭基礎形式で重量が相対的に大きい、“海水ポンプ室”の安 定性評価にて代表させる。 [審査資料の準備中]
							評価(原子炉建屋以外)						☆	コメント回答
第三 条 及 び 第 四 条	3. 防潮堤の構造成立性に係る基本設計方針 及び液状化に関する検討						防潮堤地盤改良検討							○鋼管杭鉄筋コンクリート防潮壁の上部工、下部工に対して最も厳しい 条件となる代表断面を選定し、この代表断面で、液状化検討対象層 に豊浦標準砂の液状化特性を仮定した評価、粘性土の厚さを最大・ 最小にした評価を実施し、防潮堤の健全性に問題がないことを確認し た。 また、岩盤の傾斜については、最も傾斜が急な断面を選定し評価を実 施した結果、防潮堤の健全性に問題がないことを確認した。 [資料1-1-4: 鋼管杭鉄筋コンクリート防潮壁の構造成立性について]
							液状化に関する検討及び防潮堤の下部工評価(有効応力解析)[代表波]		津波漂流物荷重					☆※
第四 条 及 び 第 五 条	4. 耐震設計方針及び耐津波設計方針						防潮堤の上部工評価(二次元フレーム解析、静的三次元FEM解析)[代表波]							☆※
							津波波力に対する構造成立性評価							☆※
第四 条 及 び 第 五 条	5. 防潮堤の設計・評価に用いる津波波圧						耐震設計方針・耐震耐津波設計方針に係る検討							☆※
							審査資料準備							☆※
第四 条 及 び 第 五 条	6. 防潮堤が寄り付く地山の洗掘対策						水理実験・シミュレーション等							☆※
							洗掘対策検討							☆※
第四 条 及 び 第 五 条	7. 港湾の防波堤(物揚護岸含む)の基準地震動Ssによる 状態変化を想定した基準津波の遡上波への影響													☆※
							津波遡上解析							☆※
第四 条 及 び 第 五 条	8. 港湾の防波堤の漂流による海水取水性への影響						津波時解析, 地震時解析							☆※
							審査資料準備							☆※

※各検討項目に対する対応状況等を説明するもので、引き続き詳細設計に向けた検討を継続し、必要に応じて検討結果について説明する。

☆/★：審査可能時期/審査会合実績

項 目		6月				7月				8月				9月				備 考
第四 条 及 び 第 五 条	9. 防潮堤乗越道路								構造及び ルートの変更 ★									○防潮堤ルート変更に伴い、アクセスルートを検討した結果、敷地北側に計画していた防潮堤乗越道路は不要であることを確認した。
	10. 敷地の特徴を踏まえた漂流物への対応				津波遡上解析													○サイト周辺の漂流物の調査により抽出された漂流物の影響評価を行い、結果を取り纏めた。 [資料1-1-2: 耐津波設計方針について(P.61～66)]
	11. 貯留堰の構造・仕様、継手部の漏水対策、貯留堰内への砂堆積・スロッシングによる有効容量への影響								ルート変更による再解析									○引き波時対策として取水口前面の海中に設置する貯留堰の構造・仕様、継手部の漏水対策、貯留堰内への砂堆積及びスロッシングの影響を検討し、引き波時の取水性に問題がないことを確認した。 [資料1-1-2: 耐津波設計方針について(P.57～59)]
	12. 放水路ゲートの構造・仕様、止水機能及びゲート閉鎖時の非常用海水ポンプ排水性																	○放水路を経由した津波が敷地に流入しないよう放水路に設置する放水路ゲートの構造・仕様、止水機能及びゲート閉鎖時の非常用海水ポンプの排水性確保の設計方針を定めた。 [資料1-1-2: 耐津波設計方針について(P.47)]
	13. 日立港区及び常陸那珂港区の延長計画による津波高さの影響評価																	○日立港区及び常陸那珂港区の防波堤の延長計画(港湾整備)の津波遡上解析への影響評価の結果、影響はないと評価した。 [資料1-1-2: 耐津波設計方針について(P.33)] ○今回の評価結果の妥当性を検証するため、整備計画(8月中旬整備情報入手)を反映した解析を実施する。
	14. 敷地の特徴を踏まえた津波監視カメラの視認範囲と十分性																	○防潮堤外側の漂流物や堆積物、取水口・放水口、防潮堤等の施設、防潮堤内の敷地の状況が監視可能なように、原子炉建屋屋上に3台、防潮堤上部に4台、合計7台の津波監視カメラを設置することとした。 [資料1-1-2: 耐津波設計方針について(P.72)]
第六 条	15. 外部事象に対する防潮堤の機能確保																	○外部事象(外部火災、竜巻飛来物)の防潮堤への影響を確認した。 [竜巻飛来物: 第498回審査会合「外部からの衝撃による損傷の防止(竜巻)」にて説明] [外部火災: 審査資料の準備中]

※各検討項目に対する対応状況等を説明するもので、引き続き詳細設計に向けた検討を継続し、必要に応じて検討結果について説明する。